市民公開講座

眼科　市民公開講座を終えて

眼科
村松 理奈

2015年1月24日、「知っておきたい　眼の病気」をテーマとし、市民公開講座が開催されました。「加齢黄斑変性」、「白内障」、「緑内障」という眼科領域のよく耳にする疾患を題材に講演が行われ、156名もの市民の方にお集まりいただきました。

まずは「加齢黄斑変性」を小野田康孝医師より、特徴的な症状、自宅でも出来る簡単な病気の発見方法から、病院で行われる検査方法や治療方法について説明がありました。次に「白内障」を毛塚由紀子医師より、白内障の症状、手術について説明がありました。白内障は年齢を重ねれば必ず誰しもなる病気で、市民の方にも身近なものであり、熱心にメモを取りながら講演を聞く姿が見られました。白内障手術は大病院でなくとも広く一般的に行われていることから、簡単な手術というイメージが持たれやすいですが、手術にはリスクがあり、また各人の抱えている問題は同じではなく、全ての人が手術をすれば必ず視力が良くなるとは限らないという注意点もお話がありました。最後に「緑内障」について講演がありました。緑内障は40歳以上の日本人の約6%にみられる病気で、白内障と似たような名称ですが、病気自体は全く異なるものです。緑内障がどういう病気なのか細かく説明し、治療方法まで説明されました。緑内障の治療は眼圧を下げる治療ですが、なぜ眼圧を下げる必要があるのか専門的な内容にも関わらず、熱心に市民の方は聞いておられました。

一通りの講演が終了した後は質疑応答の時間でしたが、市民の方は日頃から勉強熱心で、質問が次々とあがり、予定されていた時間になっても途切れることがなく盛況でした。公開講座が終わった後も個人的に講演者の元に来て、質問や相談される市民の方も多くいらっしゃいました。

公開講座の目指すところは、病気に対する正しい知識を持つことで、必要以上に病気を恐れることなく早期発見や治療に役立てることだと思います。医療機関を受診せず治療を手遅れにしてしまったり、処方されていた薬の重要性がわからず、自己判断で薬を止めてしまったりすることがなくなることも、正しい病気の知識を得ることで叶うと考えます。たとえ今病気を抱えていても、多くの人が生活の質を落とすことなく日々を送ることができればと願っております。

市民公開講座の様子

■ 市民公開講座スケジュール ■

〈2015年度の市民公開講座　予定〉　2015.3.1 現在

開催予定日	講演予定テーマ	担　当
4 / 25（土）	＜静脈血栓塞栓症を考える＞ 「血液循環によい運動」「ふくらはぎを鍛えよう」 「静脈血栓塞栓症との付き合い方」	＜循環器センター＞ 座長：東丸貴信 演者：佐々木 健、寺山 圭一郎、清水 一寛
5 / 30（土）	「糖尿病」	＜糖尿病・内分泌・代謝センター＞　龍野 一郎・他
6 / 27（土）	「肺がん」	＜呼吸器センター＞　松澤 康雄・他
7 / 25（土）	地域で考えるケアと治療	＜神経内科＞　榊原 隆次・他
8 月	非開催	非開催

入場無料
申込不要
200 席

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした市民公開講座を企画しております。多くの方にご参加いただき、病気の予防や早期発見、普段の生活に役立てていただければと考えております。
いずれの講座も 14 時から当院東棟 7 階・講堂で開催いたします。詳細は、テーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

東邦大学
佐倉だより
Vol. 28　2015,4,1

東邦大学医療センター佐倉病院
発行 広報委員会・東邦佐倉会事務局
〒285-8741
千葉県佐倉市下志津564番地1
TEL 043-462-8811(代)
FAX 043-462-8820(代)
URL http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp

基本理念

医療の目的
質の高い医療を安全に提供する病院

病診(病)連携
地域に貢献する病院

教職員のあり方
人間愛を共有する病院

職場環境
楽しく明るくチャレンジする病院

生涯教育
良き医療人を育成する病院

患者の権利

質の高い公正な医療が受けられます
個人の尊厳が守られます
個人のプライバシーが保障されます
必要な医療情報の説明が受けられます
セカンドオピニオンが保障されています
医療行為について自己選択ができます

東邦大学医学部に医師確保のための千葉県地域枠を新設

副院長／教育担当
龍 野　一 郎

Topics News
副院長／教育担当　龍野 一郎
アピールしたい診療と研究　#5
■心臓血管外科にズームアップ！　教授／本村 昇
昇任のご挨拶　外　科　講師／大城 崇司
整形外科　講師／高橋　宏
産婦人科　講師／高島 明子
医療連携だより　医療連携・患者支援センター長／中川 晃一
市民公開講座
眼科　市民公開講座を終えて　眼科 村松 理奈

早いもので、この原稿を書いております2月末時点で、心配された積雪の日もなく、少し暖かい日も続き、春の到来を感じております。

さて、大学病院の使命の一つに先端医療の提供とともに重要な優秀な医療従事者の育成という重要な使命があります。医師についてはインターン制度廃止以来36年ぶりの大改革である新臨床研修制度が2003年に導入されました。従来の制度において不十分とされた研修医に対する指導体制の大幅な強化が図られています。その一方で、地域（特に地方）の医師不足に伴う医療崩壊が大きな問題となっています。医師の養成数は確実に増えてきているわけですが、卒業後の進路（地域・専門診療科）の偏在が大きなゆがみをもたらしているといわれています。医療崩壊は千葉県も例外ではなく、東総地域・房総地域などで心配されてきたわけです。そのような中で国は「医師不足が深刻な地域の医師確保等に引き続き対応するための施策」として各大学医学部の入学定員の中に地域枠を設けてきました。

千葉県でも、将来千葉県で医師として働いていただくことを目的とし、千葉県外の大学医学部に在籍している千葉県出身者を対象とした「ふるさと医師支援コース」と千葉大学、順天堂大学、日本医科大学、帝京大学の医学生を対象とした「長期支援コース」が設けられてきました。今回、臨床研修病院として佐倉病院を持つ東邦大学におきましても、千葉県地域枠を新設することを千葉県と決め、文部科学省に申請し、この4月から千葉県地域枠として医学部入学定員を5名増員することが認められました。千葉県はこの5名に対し修学資金貸付を実施しますが、この修学資金は医師免許取得後に一定期間、千葉県内の医療機関に勤務していただいた場合、その返還が全額免除になるという制度です。東邦大学ではこの千葉県地域枠の医学生が千葉県の地域医療へ円滑に入っていただく目的で医学部在学中から毎年佐倉病院を中心として千葉県内の地域医療機関へ一定期間派遣し、千葉県の地域医療の認識を高め、卒業後に千葉県内での臨床研修が円滑に行われるためのプログラムを準備しております。

このように、東邦大学では医師の育成を通しても千葉県の地域医療への貢献を強めたいと努力しているところです。今年、東邦大学は創立90周年を迎え、様々な記念行事が予定されております。東邦大学医療センター三病院の一つ、大橋病院の建て替えや各学部の基盤整備などが決まっております。今後とも東邦大学は創立の理念である「自然・生命・人間」に立って、大学人として医療・教育・研究を通して、地域・社会そして日本の将来に貢献するべく一丸となって頑張っております。引き続き皆様のご理解・ご支援をお願い申し上げます。

アピールしたい 診療と研究 #5

心臓血管外科

にズームアップ！

▲心臓血管外科スタッフ

教授
本村　昇

佐倉に桜の季節がやってきました。昨年6月から開心術を開始し、2月末（原稿執筆時）で9ヶ月が経ちました。私を含め2人の医局員で超重症緊急心臓手術から局所麻酔の下肢静脈瘤手術までをこなし、極めて多忙な毎日を送っています。人工心肺を操作する人員にも事欠く状況から始めて、多くの先生方やパラメディカルの方々のご協力を得て、何とか大学病院の心臓外科らしい成績を出すことができるようになりました。これまでの心臓手術の内容と成績を表にお示ししたいと思います。

冠動脈バイパス術は、初回手術では全例が人工心肺を使わないオフポンプ手術で行っており、再手術症例も含めて13例中11例が無輸血でした（85%）。弁膜症手術は大動脈弁も僧帽弁も高齢者の方が増えており、80歳以上の方も珍しくなくなりました。僧帽弁手術は逆流症の方が増加しており、自分の弁を温存する僧帽弁形成術を積極的に進めています。現時点では全例が形成術で終えています。弁膜症の患者さんでは、手術前に自覚症状が少なくて検査結果だけで手術を勧められ半信半疑だった人も手術を受けてみて思っていたよりも楽になり、実は心不全症状があったのだとあらためて手術を受けて良かったと話される方もおられます。

研究面では、前施設から行っていた複数の研究を引き続き継続しています。1）全国臨床データベースの構築運営。心臓血管外科手術の術前術中術後に関する詳細なデータベースを構築しこれを全国660施設全てで入力・分析し、これを医療の質向上に用いています。今では外科学分野全体に拡大し、National Clinical Database（NCD）として国家的規模に発展しています。2）新しい医療機器デバイスの開発。外科学の進歩は手術器具の進歩と直結しています。私達も日常の手術の中で新しい機器を開発しています。垂直接線方向に運針可能な持針器、電気メスに着脱可能なハサミ、透過性抜群のアイシールドなどこれまでに無い新しい医療機器デバイスの開発に取り組んでいます。3）薬剤内服による脊髄対麻痺や術後せん妄の予防。4）ラビットを用いた血管れん縮性の基礎研究。5）凍結保存同種組織を用いた組織移植の臨床応用（東大組織バンクとの共同研究）。6）液体窒素下、超低温保存に耐えうるテフロンバッグレーザーシール法および機器の開発。など、様々な分野にわたり臨床から基礎研究に至るまで幅広く研究プロジェクトを遂行しています。

一昔前まではとても危険な大手術の心臓手術でしたが、心臓外科医だけでなくあらゆる方面が格段に進歩したおかげでより安全に受けられるようになりました。春からは我々の教室にも若い心臓外科医（の卵）が加わり、これまで以上により安全・確実な手術をさらに多くの方々に進めていけるよう尽力していきたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

手術	数	成績（死亡）	無輸血	その他
オフポンプ冠動脈バイパス術	13	0	11（ 85%）	左開胸１例
再冠動脈バイパス術	1	0	1（100%）	
大動脈弁置換術	9	0	3（ 33%）	感染性心内膜炎１例、再手術１例
僧帽弁形成術（不整脈手術メイズ手術を含む）	9	0	6（ 67%）	
大動脈弁置換＋僧帽弁形成術	5	0	2（ 40%）	緊急１例
大動脈弁置換＋冠動脈バイパス	3	0	2（ 67%）	
心室中隔穿孔	1	0	0（ 0%）	超重症、緊急
合計	41	ゼロ	25（ 61%）	

昇任紹介

外科
講師
大城崇司

このたび外科学講座講師に昇任させて頂きました大城崇司と申します。1996年に熊本大学医学部を卒業し、2009年1月から東邦大学医療センター佐倉病院で外科の一員として勇往邁進して参りました。私の専門は腹腔鏡下手術ですが、その手技は機器の発展、外科解剖の習熟もあり近年目覚ましく進歩しています。安全な手術はもちろん、そのメリットを活かした手術により、プラスαの恩恵を患者さんにもたらしたいと思っています。また肥満症、メタボの疾患に対する外科手術にもチーム医療で積極的に取り組んでおります。肥満のみならず、関連健康障害（糖尿病、高血圧、高脂血症など）を改善させ、患者さんに福音をもたらす治療法であると確信しています。

整形外科
講師
高橋　宏

この度、2014年12月より整形外科学講座講師に昇任させて頂きました高橋宏と申します。私は2003年に千葉大学を卒業、2012年3月に千葉大学大学院を修了し、2012年4月より当院に赴任致しました。以降、私は脊椎・脊髄疾患を専門として診療に従事させて頂いております。当科は関節リウマチ症例特有の上位頚椎手術が多いのが特徴で、頚椎・腰椎とも症例によっては2cmの創での顕微鏡視下低侵襲除圧術も積極的に行っております。また、研究面では脊椎疾患症例の脳脊髄液中蛋白定量化を行い、急性脊髄損傷、圧迫性脊髄症の病態解明を目指しております。今後とも臨床・研究の両面で佐倉病院整形外科の発展に尽力したいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

産婦人科
講師
高島　明子

2014年12月から産科婦人科学講座講師を拝命致しました。私は2000年に東邦大学を卒業し、14年間当院に勤務して参りました。産婦人科は腫瘍、周産期、生殖内分泌、ヘルスケアの4つに大別されます。私は主に内視鏡治療と生殖補助医療を中心に診療を行っております。当院は千葉県内でもリプロダクションセンターを併設している数少ない大学病院であります。私は県内唯一の腹腔鏡及び子宮鏡の技術認定医として、妊孕能温存、機能温存、症状の改善、再発予防を目指して、適切で確実な治療を行う事をモットーにしております。東邦大学医療センター佐倉病院を千葉県における婦人科内視鏡手術の拠点病院となるよう、尽力したいと思います。

医療連携だより

第4回佐倉医療連携学術フォーラム 開催

医療連携・患者支援センター長　中川　晃一

去る2015年2月7日（土）に、第4回佐倉医療連携学術フォーラムを開催いたしました。当日は、医師・歯科医師・看護師・訪問看護ステーションスタッフ・コメディカル・行政・地域包括支援センター職員など、多職種290名のご参加をいただきました（うち学外からは91施設155名）。

第1部の講演会では、テーマを「がん患者に対するトータルマネジメント」とし、院内外5名の先生方に、大変貴重なご講演をいただきました。

第2部の懇親会では、各診療科・部署ごとに教職員を配置した立食テーブルを設け、日頃お世話になっている地域の医療関係者の皆様に感謝の意を表すとともに、より一層の親睦を深めることが出来ました。

今後も医療連携学術フォーラムを継続開催することなどにより、「顔の見える医療連携」「対話する医療連携」の更なる充実を目指し、地域完結型医療の円滑な運営の一助となるよう努力していく所存ですので、ご理解とご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。